

SSKO



おあしす通信

編集 キープハート（おあしすの事業を支える市民の会）

2022年9月号

優しいぬくもりあふれる木のおもちゃ



Be ACTO（木製おもちゃ）
詳しくは本誌5頁く...

社会福祉法人
おあしす福祉会

〒136-0076 東京都江東区南砂3-4-6 TEL 03-5690-5959
<http://www.oasisfukushi.or.jp/>

就労継続支援B型事業所

- オアシス・プラス 〒135-0021 東京都江東区白河4-7-2 TEL 03-5646-7811
- コム・オアシス 〒136-0076 東京都江東区南砂3-4-6 TEL 03-5690-5959

多機能型（就労継続支援B型・就労移行支援・就労定着支援）事業所

- ピアワーク・オアシス 〒135-0001 東京都江東区毛利1-7-3 TEL 03-5638-1775

地域活動支援センター／指定（特定・一般）相談支援事業所／自立生活援助

- ウィル・オアシス 〒135-0002 東京都江東区住吉1-17-20住吉ビル4階 TEL 03-6284-0545

共同生活援助事業（グループホーム）■第2クローバーハウス

おあしす利用者家族の会「杏の会」

居住支援法人に指定されました！

いま日本では、住まいに不安を抱える人が増加しています。居住こそ福祉であり、住まいこそ人権です。安心できる住まいの確保のためにおあしす福祉会は新たな事業として、東京都から居住支援法人の指定を受けました！

居住支援法人は、住まいのことで困っている人を支援する団体です。たとえば、低所得者、高齢者、障がい者、被災者などの人たち（「住宅確保要配慮者」といいます）を支援します。おあしす福祉会は、江東区初の居住支援法人です。住宅政策の現状の確認も含め、以下で詳しくみていきましょう。

なぜ住まいの支援なのか？

全国的な状況

国土交通省の「令和3年度 家賃債務保証業者の登録制度等に関する実態調査報告書」では、以下のような結果が出ています。

住宅確保要配慮者の入居に 対する賃貸人（大家）の意識

対象者	対象者に拒否感のある 賃貸人（大家）
高齢者	回答した賃貸人（大家）の 66%
障がい者	同 66%
子育て世帯	同 18%
外国人	同 64%

入居制限の状況



残念ながら、大家さんの7割弱が、障がいのある人や高齢者に部屋を貸すことに拒否感があるそうです。さらに驚くべきことに精神障がいのある人に部屋を貸すことを不可としている大家さんは、全体の25%以上。困難な状況にある方は、部屋を借りることさえも困難になっているのです。

江東区の現状と課題

◎家賃の高騰

わがまち江東の状況はどうでしょうか。江東区は7月に人口が53万人になりました。城東地区では、江戸川区に次いで2番目に人口が多い区です。人が増えるのは、住みよい町の証拠？！ところが、江東区でひとり暮らしのアパートを借りようとしたら、家賃相場は月額8万円以上です。

東京23区の住宅扶助（生活保護制度で定められている住居費用）の上限は、ひとり暮らし世帯で53,700円。5万円台の家賃で住める民間アパートは、江東区にほとんどありません。あったとしても風呂なしの物件などです。生活保護を受給している人に、いまの平均的な日本人の住まいが整備されているとはいえない状況です。低廉な家賃で安心して暮らせる住宅が江東区にはほとんどないのです。

◎空き家の不足

全国的には空き屋の増加問題になっていますが、江東区は空き家もほかの自治体と比べて、少ないのです。「平成30年住宅・土地統計調査（総務省）」によれば、江東区の空き家数は、約2万1千戸。東京23区で10番目に低い空き家数です。空き家率（総住宅数に占める空き家の割合）でみると7.7%と、東京23区で1番空き家率の低い区となっています。東京都全体での空き家率が10.8%ですので、平均より大幅に低い空き家率です。

◎江東区の住まい

江東区では、タワーマンションで暮らす、比較的裕福な人は増えています。しかし、その陰では、老朽化したアパートが取り壊され、どんどん新築マンションが建設されている状況があります。

住みなれた住居を追われ、引っ越さなくてはならないという人の相談が、おあしす福祉会に何件も寄せられています。

江東区は、年金暮らしの人、経済的に困窮している人などにとって家賃の負担が厳しく、住む家を探すにも家自体の数が限られている状況なのです。

◎行政の対応

江東区の行政も「お部屋探しサポート」や「障害者単身生活サポート事業」など住宅対策を講じています。しかし、「お部屋探しサポート」は、役所に登録している不動産業者が物件を紹介するのみで、部屋を借りる手続きに関する支援はありません。また「障害者単身生活サポート事業」も単身者だけが対象となっていて、夫婦や子どもといっしょに暮らしている人は利用できません。

いずれも住宅確保要配慮者に寄り添った支援とはいえない状況です。

居住支援法人とは

日本全体……住まいを必要としている人に大家さんが家を貸してくれない
江東区……安い家賃の賃貸アパートがほとんどない

以上のようなダブルパンチ。何とかしなければなりません。国もこのような状況を重く見ており、「住宅セーフティネット法」という法律を制定しました。居住支援法人は、この法律の第40条に位置付けられている、住まいの確保を支援する団体です。おあしす福祉会は、今年の6月から居住支援法人の事業を開始しています。

居住支援法人の具体的な内容

◎たとえばこんな相談

〔家を借りる立場〕

- ・長年住んでいたアパートが老朽化して退居を迫られている。身寄りもないので、新たに借りられるアパートを探せない。
- ・ひとり暮らしをしなければならない状況になったが、何からはじめたらいいのかわからない。いままで不動産屋に行ったこともない。
- ・部屋を借りようと不動産屋めぐりをしているが、障がいを理由に断られてしまう。

〔大家さんの立場〕

- ・障がいをもっている人が隣室の人とトラブルを起こすのではないかと心配だ。
- ・孤独死してしまうのではないかと。そもそも相談できる場所がない。
- ・過去に障がいをもった人を入居させたことがあるが対応に苦労した。

◎利用できる方

江東区での居住を希望する障がいのある方

10月1日(土)住まいの支援 シンポジウムを開催！

居住支援法人の設立を記念して、シンポジウムを下記のとおり行います！

日時：10月1日(土)
14時00分～16時30分
場所：ティアラこうとうB1F中会議室
内容：基調講演 東京大学大学院
人文社会系研究科・
文学部准教授 祐成 保志 氏
シンポジウム 障がい者支援機関
高齢者支援機関
子ども支援機関などの
各代表者により議論

各分野の支援者が集い、江東区の住まいの支援について議論します。会場からの質問も受け付けます。関心のある方は、是非ご参加ください。

今後の可能性 地域のいろいろな人、団体と連携して課題を解決！

これまで、おあしす福祉会では、「グループホームの退居からアパート生活への支援」、「地域生活のサポート」などを行ってきました。これからは居住支援法人の指定を受けたからこそ、いままでのノウハウを活かして、よりいっそう住まいの支援を充実させていきます。

個別的な支援に加えて、居住支援法人を旗印に地域のいろいろな人たちと連携します。おあしす福祉会だけで展開するのではなく、町会・自治会、民生・児童委員、不動産会社、区役所、社会福祉協議会などさまざまな団体とタッグを組んで、江東区で安心して暮らせる住まいの確保に努めます。

また、江東区には、「居住支援協議会」という官民相互の連携で住まいの安定した居住を支援する協議会があります。おあしす福祉会も江東区初の居住支援法人として、参加させてもらうよう、行政に要請していきます。この事業は、様々な方たちの協力や寄付が必要です。ご支援・ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。（間庭 尚之・市村 哲郎）

地域の中で着実に広がるつながり ～木のおもちゃが「ひがしん」の各支店でお出迎え～

皆さん、東京東信用金庫（ひがしん）をご存じでしょうか？「ひがしん」は、墨田区に本店を置き、東京都の東部地域、埼玉県南東部、千葉県北西部を営業区域としている信用金庫です。地域社会との共存共栄を目指し、SDGs（持続可能な開発目標）にも積極的に取り組んでいます。

今回、SDGsの社会貢献活動の一環として「ひがしん」の江東区内8支店において、ピアワーク・オアシスの木のおもちゃを展示して下さることになりました。きっかけは、アートパラ深川というイベントを通してのご縁でした。おあしす福社会からも実行委員として職員が参加をしていましたが、「ひがしん」からも多くの社員がボランティア参加をされていて、そこでの出会いがきっかけです。おあしすとしては、コロナ禍でも積極的に地域の中で活動を展開してきたからこそ、始まったつながりでした。その後、江東区内各支店の支店長にピアワーク・オアシスの施設見学に来ていただき、「木のおもちゃのお店」だけでなく、製作現場も見させていただきました。その上で、今回は各支店での「木のおもちゃ」の展示をご提案いただきました。

窓口の一角や、待合スペースにコーナー設置をしていただくなど、各支店ごとに社員の皆様が創意工夫をした展示がされています。信用金庫という地域に根ざした金融機関で「木のおもちゃ」や「お店」を地域の皆様に知っていただき、実際に展示を見て足を運んでいただいたお客様もいらっしゃいました。木工に関わっている利用者からは、「自分の作ったのが展示されているのなら、帰りに見に行ってみようかな」と誇らしげなコメントも聞かれました。自分たちが作った商品が評価され、認められたことを利用者が感じることでできる機会となりました。今後も引き続き、このような地域の中での展開が増えていくように活動していきたいと思います。

（丸橋 克也）



～利用者2名とともに話をうかがってきました～

【木のおもちゃの展示のきっかけは？】

アートパラ深川のイベント参加した時に、ご紹介いただきました。金庫としてもSDGsに取り組もうということで1度きりのイベントだけではなく、継続的に何かできないか？と考えたことがきっかけです。

【展示の反響はありましたか？】

コロナ禍で新聞や雑誌、チラシ等が感染対策上設置できず、お店が殺風景になっていました。そこで木のおもちゃを店舗に置かせてもらうことで、雰囲気も良くなりお客様から反応も頂くようになりました。また、木のおもちゃだけでなく、説明ボードも置くとお客さんも興味深く見てくれていました。

【今後について】

各支店に設置した木のおもちゃを入れ替え、いろいろな種類を展示できるようにしたいと考えています。12月にはクリスマスツリーも飾る予定なので、おあしすのオーナメントにも興味があります。私たちの金庫では、地元のお客様や企業の方と交流して町全体で元気になっていくためにはどうしたらいいかを考えています。これからも、地域の皆様の役に立てよう取り組んでいきたいと思っています。

【お話をうかがった利用者の感想】

「ひがしん」で木のおもちゃを見て、買いに来てくれたお客様がいたので、大変ありがたいと思っていました。

今回、お話を聞かせていただき、地域に根差して地域を活性化するようにしていることがよくわかりました。自分たちが作っているおもちゃが窓口に飾られているのを見て、とても誇らしい気持ちになりました。

（T・K）



「人と人とのつながり」が「まち」をつくる

初のBeACTOマルシェ開催 BeACTO亀戸とおあしす福祉会が考える地域づくり

江東区の新名所カメイドクロック。皆さんはもう行きましたか？
以前「サンストリート亀戸」があった場所に2022年4月にオープンした新しい大型ショッピングモールです。地元 江東区内の名店がテナントとして多く入るなど下町の文化とニューカルチャーを融合した新しい商業施設にはマンションや小学校、保育園が隣接し、ひとつの「まち」を構成します。このカメイドクロックがある亀戸6丁目で新しい「まちづくり」が始まりました。



カメイドクロック

BeACTO亀戸が目指すもの

「まち」はきれいな建物を作ったことで完成ではなく、そこに住んでいる人や訪れる人によって作られます。人々が時間をかけて地域に愛着を持つていくことで、世代を超えて愛される「まち」になります。BeACTO亀戸はカメイドクロックのある亀戸6丁目を中心に活動する会員制のコミュニティで誰もが入会できます。亀戸6丁目の住民と周辺地域に住む人や団体が会員として交流することで、人と人がつながりお互いが支え合う「まち」ができていきます。カメイドクロックの隣り、プラウドタワー亀戸クロスの4階にはBeACTO亀戸の活動拠点として「まちなのリビング」というコミュニティスペースが設けられ、様々な利用ができるようになっています。



「まちなのリビング」キッズスペースに木のおもちゃを

地域交流を重視したまちづくりを目指すBeACTO亀戸の活動はすべての人が生き生きと暮らせる地域社会の実現を目指すおあしすの理念にも通じる部分が多くあります。春にピアワーク・オアシスに来ていただいた際には「まちなのリビング」のキッズスペース用に恐竜とくるまのおもちゃのご注文をいただきました。「まちなのリビング」にお越しの際はぜひキッズスペースものぞいてみてください。

初のマルシェ「赤からし市」開催

8月6日、初のBeACTOマルシェ「赤からし市」が開催され、地元江東区の白鷹ソース、深川ワイナリーなどのブースが並びました。おあしすも木のおもちゃの展示販売で出店、会場内にはお子さんたちのために木のおもちゃの遊び場スペースを作っていました。

大好評の木のおもちゃ、遊び続ける子ども達・・・

遊び場スペースは大好評で多くの子ども達で賑わいました。

盛り上がりすぎてロボットのおもちゃがトラックのおもちゃに乗って隣の部屋に行ってしまったたり、カスタネットがソファの下に飛んでいったりしましたが・・・完全に帰るタイミングを失って困り顔のご家族には申し訳ありませんでしたが、時間を忘れて自由に遊ぶお子さん達はとても楽しそうでした。

おあしす福祉会は今後もBeACTO亀戸と一緒に様々な企画をおこなっていきたいと思っています。
(武藤康司)



* マルシェ当日の詳しい様子、BeACTO亀戸の詳細は下記のサイトでご覧いただけます。
<https://be-acto-kameido.net/>

ラグビー選手がおあしすに来てくれました！

～おあしすの地域貢献活動報告【ブルーシャークス編その2】～

7月28日、ピアワーク・オアシスとオアシス・プラスに屈強なラグビー選手たちが表敬訪問に来てくれました！チームを代表して来てくれたのは高橋 広大キャプテン、藤高 将選手、大隈 隆明監督。当日は木のおもちゃのお店を見て頂き、それぞれの施設で利用者から選手たちへ質問、逆に選手たちから利用者へ質問をして交流する時間をいただきました。特に「相手も仲間もリスペクトする気持ちが大切」という選手たちの言葉に、胸を打たれました。そしてチームからはとても立派な記念品も頂き、利用者・職員一同大喜びでした。また、交流の後にはピアワークで選手たちに缶バッジ製作体験をして頂きました。作ったサイン入り缶バッジはファンへのプレゼント企画をされるそうです。高橋キャプテンは自分で作った缶バッジを何度も見返し「コレ、いいですねえ♡」とおっしゃりながら、写真を撮っていた姿にこちらまで嬉しい気持ちになる場面もありました。

コロナ禍でほとんどの行事ができなかった中で、今回のような交流の機会は本当に利用者、職員にとって貴重な機会でしたし、何より選手たちの誠実で真摯な姿勢と力強い言葉に勇気づけられました。今後もこのような交流を続けていけることを切に願います。

（友田 奈津美）

【利用者の感想】

■ 鮫太郎の缶バッジを作るまではブルーシャークスのことを知らなかったけれど、試合を見て、選手と交流することもできて、これからはどんどん応援をしたいと思います。

■ 選手たちが自分の作った楽器（ハンドオルゴール）の説明を真剣に聞いてくれたのが印象的だった。大きな指でおもしろがって弾いてくれたのがうれしかった。

■ スタンドから応援していた選手たちを目の前で見ることができてうれしかった。思っていたよりも体が大きく、圧倒されました。

■ 来てくれた選手が言っていた、選手達のぶつかる音を聞いてほしいとあったが、実際に試合に行ったときにその音を聞いてびっくりしたしかっこいいと思った。

【大隈監督より】オアシスのみなさんと交流できて良かったです。鮫太郎の缶バッジ作成、朝早くからのお弁当作り、本当にありがとうございました。来シーズンも引き続き宜しくお願いします。会場に来られた際はぜひお声かけください。表敬訪問の様子はシャークスのホームページにも掲載されています
<https://blue-sharks.jp/news/2022/07/14549/>



今回の表敬訪問もSAMEYAの高瀬石海様が仲介してくださいました。また当日はシャークスのスタッフとして、高井優一様、小笠原真智様、田中怜恵子様にもサポート頂きました。皆様のサポートがあったからこそこのような機会が実現しました。心から御礼申し上げます。

私たちが作ったかかしが新潟「大地の芸術祭」に

～おあしすの地域貢献活動報告【深川資料館通り商店街編その2】～

オアシス・プラス（以下「プラス」）が日頃からお世話になっている「深川資料館通り商店街」では、毎年2回「かかしコンクール」という催しが行なわれています。昨年もプラスはこのコンクールに参加させて頂きました。そして今年は2回目ということで、昨年の反省点も活かして、気合いを入れての参加となりました。まず何を作ろうか！？という話し合いからスタート。かかしの提出はちょうどシャークスの表敬訪問の日にと近かったことから「鮫太郎」に決定！かかしなので雨風に強くないといけないので、素材をどうするか？ということから利用者のみんなで試行錯誤して作りました。絵の得意な人、日曜大工が得意な人、家から不要になった青いTシャツを持ってきてくれた人、みんなが自分ができる形で、一生懸命作りました。

本物の鮫太郎を見たことがあるメンバーは数人だったため、インターネットで様々な角度の鮫太郎の写真を検索し、背びれや尻尾に至るまで、しっかり作り込みました。完成したかかしはまずは商店街に展示されたのですが、今年は商店街が新潟の大地の芸術祭と連携するとのことで、なんとわたしたちがつくった鮫太郎が新潟に出張することになりました！！コロナ禍で遠くに行くことがなかなか難しい中、わたしたちの思いを乗せて遠く新潟に行かせてもらえて、利用者職員一同、とってもうれしい展開となりました。（友田 奈津美）



鮫太郎のぽっこりおなかも忠実に再現しています。制作中は休憩時間も利用者同士で「頭を胴体につけるのどうしようか？」「もうちょっと青いテープで補強した方がいいんじゃない？」等、活発な意見交換がされていました。



『大地の芸術祭』新潟県越後妻有地域を舞台とし、農業を通して大地とかかわってきた「里山」の暮らしが今も豊かに残っている地域で、1年を通して自然の中に様々な作品が展示されています。こちらでは9月4日までかかしが展示されるそうです。深川資料館通りのかかしコンテストは9月10日まで。プラスではもう1体高橋キャプテンのかかしを作成し（ご本人より承諾頂いています）、追加でエントリー予定です。

利用者に届け！おあしすパントリー！

～初めての食品配布会～



配達前の様子

おあしすの施設に食品をお届けしました！

8月5日（金）、夏期休暇中に利用者やご家族の生活に役立ててもらえればと考え、フードドライブで集めた食品を、おあしす福祉会の施設5か所に配布いたしました。フードバンク江東様からもご協力いただき、たくさんの食品をお届けすることができました。配布した各施設からは、喜びと感謝の声が返ってきています。

元々は7月31日（日）におあしすの利用者のご家族を対象にフードパントリー（食品配布会）を開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染者数が急増し、感染予防の観点からやむなく中止としました。

当初チャレンジしようとしていたパントリーではなくりましたが、持続可能な活動を目指して今後コロナ禍でもみんなが安心して参加できるフードパントリーの方法を考えていきたいと思います。

ミニパントリーを初開催！

8月10日（水）コム・オアシスと第2クローバーハウス合同でミニパントリーを開催しました。

参加した利用者からは、「こんな食品もあるんだ！」「もらっていいの？」「生活が助かるよ」…といった声が聞け、楽しそうに食品を選ぶ姿が印象的でした。食品の提供を受けて生活の一助になればと考えた取組でしたが、この活動を通して利用者が様々な食品と出会い生活が少しでも豊かになれたらと感じました。

この活動を通して、誰かの役に立てたと感じられたり、わくわくするこの気持ちを利用者や地域の方々と共有し、利用者とともに取り組んでいきたいと思います。（山岡 望）



集まったたくさんの食品

リサイクルショップ・オアシス公式アカウントを開設しました!!

この度、ツイッターのアカウントを開設しました。営業時間のお知らせ、おすすめの商品やセールのご案内、お店の様子なども紹介していきます！是非、フォローや宣伝をしていただけると嬉しいです。

また、コム・オアシスでは提供品を募集しています。詳細は同封のチラシをご確認ください。コロナ禍で厳しい日々が続いていますが、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



@oasis_recycle